

“爆薬説も検討の必要”

西田
工場長

水俣病で見解発表

西田新日窒水俣工場長は二十四日

午後一時すぎから工場会議室に中村市長、淵上市議会水俣病対策委員ら五人を招き、熊大の有機水銀説に対し工場側が八月五日の見解発表のあと三カ月間にわたり詳しく調査したデータにもとづく見解を説明、さらに「同市茂道海域に軍需物資が終戦当時捨てられたのではないか」との「爆薬説」についてつぎのように述べた。

熊大側がマンガン、セレン、タリウム、水銀などの説を主張すると同よう軍需物資説も一応疑ってよいのではないか。爆薬説を主張したのは日本化学協会理事の大島竹治氏で、われわれは

参考意見として県に行つて発表した。工場側では爆薬説を固持するのではなく、また反論するわけでもない。要は反論しあうことではなく学者対学者でデスカッションする意味で今後も共

・同研究を進めようと思つてい
る。
なお同工場ではさる十日ごろから同海域を電探で調査したところ、数カ所に異変箇所があつたので近く潜水して調査するといつてゐる。